

平成三十一年度 国語 (文学科 日本語日本文学専攻) 解答例

一 (一〇〇点)

問一 (十六点)

- ① 近似 ② 簡便 ③ 劣 ④ 必須 ⑤ 両輪 ⑥ 完備  
⑦ 帯 ⑧ 普遍

問二 (十二点)

- A 出あつた B このようにして C 系統的に／体系的に  
D 思わず知らずに E ただ一つのやり方 F 特別に取り上げて  
文法規則と語彙

問三 (七点)

問四 (十五点)

問五 (十点)

子どもが単語の使い方における制限・規則を獲得したことが確認できたから辞書に収録されるべき単語等の使い方についての情報や規則を知らなければ正しい文は作れないから (四十五字)

問六 (五点)

意識することがないくらい、この種の知識・情報を自分のものとしているのである。(二十八字)

問七 (十五点)

問八 (二十点)

「働く」という動詞は、「私は銀行で働いている」のように、「誰々ハどこどこニ働く」という文型が取れず、「誰々ハどこどこデ働く」という文型で使われる。それに対して、「勤める」という動詞は、「私は銀行に勤めている」のように、「誰々ハどこどこニ勤メル」という文型で使われる。

二 (六〇点)

問一 (八点)

問二 (十二点)

エ 打ち消しの接続助詞 くしないで、くせずに、の意。  
昔つきあっていた女性などが参詣して来合わせたと思わせて、為仲をだまそう。

問三 (十点)

問四 (六点)

問五 (十二点)

変だ、変だと何度も言っているようだ。  
為仲の(経を読む)声  
昔の恋人が偶然自分と同じ時に清水寺に参詣して、その恋人が自分に歌を詠んで送ってきたこと。(四十六字)

問六 (十二点)

滝の音も私の声も昔聞いたものと変わらないのは、滝が流れても絶えることのないように私のあなたを思う心も絶えてはいないからだとわかって欲しい。

三 (四〇点)

問一 (八点) あひ (あい) あへて (あえて)

問二 (八点) 朝廷の命令が何度か下されたが出仕しなかった。

問三 (六点) ア

問四 (八点) まさにさうせい (そうせい) をいかんせんとする (と)

問五 (十点) 謝安はこれまでの俗世間を遮断した生活と今後強まる周囲からの期待とを考え  
ると、やりきれない気持ちになってすこし困惑しているから。